

FURUTECH

Review

Audio Accessory
2022 SPRING 184 - JAPAN



フルテックのフラッグシップRCAプラグの魅力を探る 大好評を得る画期的な特殊素材NCFを 信号系端子に初採用したRCAプラグ

ケーブル周りをサポートしてクオリティアップを実現する「NCF Boosterシリーズ」が、世界中で人気を得るフルテック。NCFはプラグやコネクタ、コンセントなど、電源関連製品に豊富なラインアップと実績を誇り、これを起用したOEM製品も数多く製品化されている。今般、遂に信号系の端子に採用となり、その第一弾としてRCAプラグが登場した。名実ともに最上級を徹底追求し、優れた装着性と組み込み精度、高級感ある仕上がりを得たNCFのRCAプラグ。その進化した音の魅力をレポートする。

Photo by 田代法生

NCF®



写真左は、「CF-102 NCF(RCA)」を採用する完成品RCAインターコネクトケーブル「Lineflux NCF(RCA)」(¥225,170/1.2mペア・税込)

FURUTECH CF-102 NCF (RCA)

ハイエンド・グレード RCAプラグ
¥21,120(2本1組・税込)

Specifications

●ボディ: α(アルファ)銅合金ロジウムメッキ ●ハウジング: マルチマテリアルハイブリッドNCFカーボンハウジング ●導体接続線方式: ねじ止め ●最大ケーブル適応径: 11.0mm ●外部サイズ: 全長約φ14.0mm×54.0mm ●質量(ネット): 約29.5g ●付属品: 1.5mm六角レンチ(H1.5)、2mm六角レンチ(H2.0)

新プラグ「CF-102 NCF(RCA)」は、センターピン内部に特殊素材「NCF」が注入された、α O C Cロジウムメッキのワンピース中心導体を採用していることが最大の特徴だ。α銅合金ロジウムメッキボディを基に、ハウジングはステンレス製基材に、NCFと銀メッキカーボンファイ

フルテックの新コネクタ「CF-102 NCF(RCA)」は、信号系端子に初めてNCFを採用したプラグで、同社最上位モデルとなる。フルテックが開発してきた人気NCFシリーズでお馴染み特殊素材「NCF」がプラグ中心内部に組み込まれていることが特徴で、第一弾モデルのこれを端緒に、今後単品販売によるOEM供給を行っていくという。さらに、各種信号系コネクタにも順次NCF採用モデルを開発予定とのこと、今回は「CF-102 NCF(RCA)」の魅力に迫ってみよう。

NCFとロジウムメッキを採用
伝送性能を一念に突き詰めた



Text by
生形三郎
Saburo Ubukata



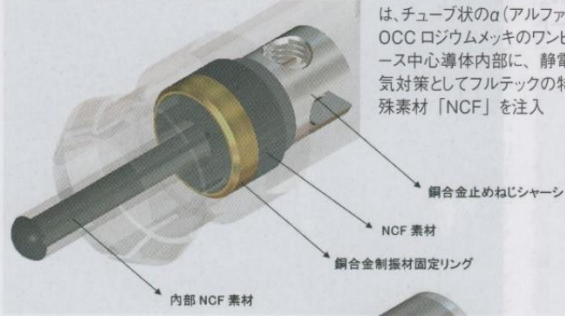
外觀はもちろん、内部まで美しく精密な作り。なおかつ結線作業の作業性も配慮された「CF-102 NCF (RCA)」

今回、このプラグの魅力を探るため、CF-102 NCF(RCA)を装着した同社のプラグシッ プRCAケーブル「Lineflux NCF(RCA)」と従来コネクターによる「Lineflux(RCA)」の比較試聴を実施した。ケーブル部には、超低温処

新旧モデルの比較試聴を実施 NCFプラグの効果を確認

理と特殊電磁界処理による独自のαプロセス処理が施された13mm径単芯のαOCC導体を採用。PET/AIテープラップとα導体編組による2層シールド構成に加えて、ナノ単位セラミック/カーボンパウダー化合物を含有した共振減衰素材入りPVCシース、さらには、高品質ポリエチレンによる絶縁/誘電体を備えるなど、フル

ワンピース Alpha OCC 導体構造拡大図



RCAプラグのセンターピンは、チューブ状のα(アルファ)OCCロジウムメッキのワンピース中心導体内部に、静電気対策としてフルテックの特殊素材「NCF」を注入

まず、本誌試聴室のベシック

テックならではの徹底的な音質対策が盛り込まれた構成となっている。より緻密な音場で高い解像力目の覚めるような描写に驚く

究極の帯電防止および共振減衰材料NCFを調合した、新設計のRCAプラグ部



NCF素材を採用：チューブ状のα(アルファ)OCCロジウムメッキのワンピース構造導体ピンにフルテックの究極の帯電防止および共振減衰材料-NCFを注入

ハウジング：マルチマテリアルハイブリッドNCFカーボンハウジングは、外側のハードクリアコートとその下のハイブリッドNCFシルバメッキ3kカーボンファイバーの別の層で構成されています。内部は非磁性ステンレスハウジングです

しかしながら、ここから新たなNCF採用のRCAプラグが装着された「Lineflux NCF

なグレードのレファレンスケーブルから、非NCFプラグによる「Lineflux(RCA)」へと変更すると、まずは低域の滲みが抑制され演奏の運びが明瞭になるとともに、歪み感が減り音色に自然な温かみが出てきて、音楽描写にリアルかつ心地のよい手触りが生み出された。音像の定位も瞭然と整頓され、各楽器が明瞭に描かれるとともに、音場にも深い奥行きが引き出される。従来コネクターであつても、かなり高水準なケーブルであることが確認できる。



最新の完成品「Lineflux NCF(RCA)」(NCFモデル、手前)と、そのNCFを使用していない従来モデル「Lineflux(RCA)」とで比較試聴を実施。その音の成果は予想以上の驚嘆すべきものだった

オーケストラと合唱によるソースでは、弦楽器、打楽器、管楽器、そしてコーラスと、それらの楽器群の配置がしっかりと描き出され、どのようにしてオーケストラの音像が組み立てられているのかとい

F(RCA)」に驚き変えると、予想以上の向上に驚かざるを得なかった。まさに「目が覚める」という表現がしっくりくるサウンドなのである。これまでケーブルが秘めていたであろう性能が明快に引き出されている。先述の通り、旧コネクターによるケーブル自体が、音の分離や音場の奥行き表現などの性能が高かったのだが、さらに緻密な音場再現と高い解像力が発揮される。まさに、コネクターひとつでここまでクオリティが向上するののかという改善に驚くしかない。

上がることになるだろう。

以上のように、フルテックの新プラグシッ プコネクター「CF-102 NCF(RCA)」は、これまで同社NCFシリーズで度々感じていた、十全な音の明瞭化・高解像化効果を備えたRCAプラグだということが確認できた。このコネクターの登場によって、自作ユーザーの魅力的な選択肢が増えるとともに、各メーカーの完成品ケーブルのグレードがさらに向上

うことが瞭然と描写され、音楽が空間いっぱい満ちる。それでいて、高解像でありつつも耳あたりの良い上質なサウンドが確保され聴き心地が良いので、どんな音楽を聴き込んでみたい衝動に駆られてしまう。

ヴォーカルソースは、歌声の音像がよりシャープに描き出されて、積極的に声の前へと出てくる。同様に、各楽器の演奏している姿が明瞭に浮かび上がり、立体感が向上している。まさに音楽が積極的に浮き立ってくる印象なのだ。

ジャズのピアノトリオでは、ウッドベースの低音がタイトに締まり、トリオの各楽器の演奏がさらに克明に解像されるようになる。試聴に使用したB&W 802 D 3の特徴である、シャープかつ高解像な描写が際立ってきた印象だ。